
調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2010年 11月 4日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-5998)

○2010年10月13日～20日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。

調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は沖合域に多く、漁場となる沿岸域では少なかった。
- 魚群の分布深度はおよそ 150～500mで、分布の中心は 300～400mに見られた。
- 計量魚探による魚群反応量は、昨年同期を上回った。
- すけとうだら延縄漁場周辺の水温は、昨年より高く、2008年並みであった。

● スケトウダラ魚群の分布

・ 水平分布(図1, 図2)

昨年と同様に、スケトウダラは主に奥尻島の東側、松前小島堆、奥尻島の南側(奥尻堆)などの沖合域に分布が多く見られ、延縄漁場となる沿岸域(図1の青い円の範囲)では昨年同様、少なかった。

・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布は、およそ水深150～500mに見られました。また、分布の中心は概ね水深300～400mに見られました。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量(図2)

計量魚探による桧山海域全体のスケトウダラの魚群反応量は、昨年(2009年)を約2割上回りましたが、2007年の7割と、少ない状況にありました。

● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

相沼沖と奥尻堆周辺で行ったトロール調査では、33～51cmスケトウダラが漁獲され、30cm台後半(35～38cm)の2006年級群と思われるスケトウダラも多く漁獲されました。また40～45cmのスケトウダラも多く漁獲されました。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖で水温の観測を行いました。各調査点とも、今年の水温は昨年(2009年)より高く、2008年並みでした。特に、水深200m以浅で昨年との水温差が大きく、2～4℃高くなっていました。

また表面～30mの水温は2006年以降では最も高くなっていました。

● 漁況の見通し

計量魚探調査において魚群反応量が昨年より多かったことから、漁獲量は昨年並みか上回ると考えられます。しかし、トロール調査でも漁獲された35～38cmのスケトウダラは2006年級群(4歳)と考えられ、全て漁獲対象になるとは限らないので、その場合、漁獲量は昨年並みにとどまる可能性もあります。

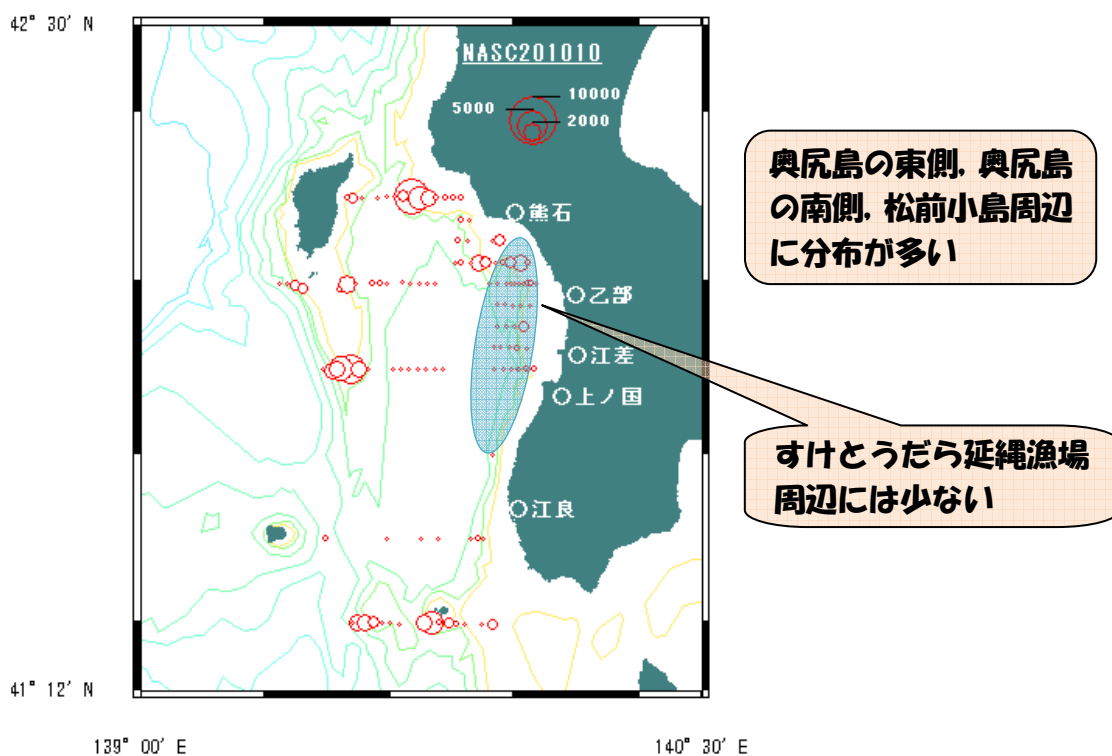


図1 調査海域全体の魚群の水平分布 (2010年10月)

○の大きさが魚群反応量 (S_A) を示す

：すけとうだら延縄漁場

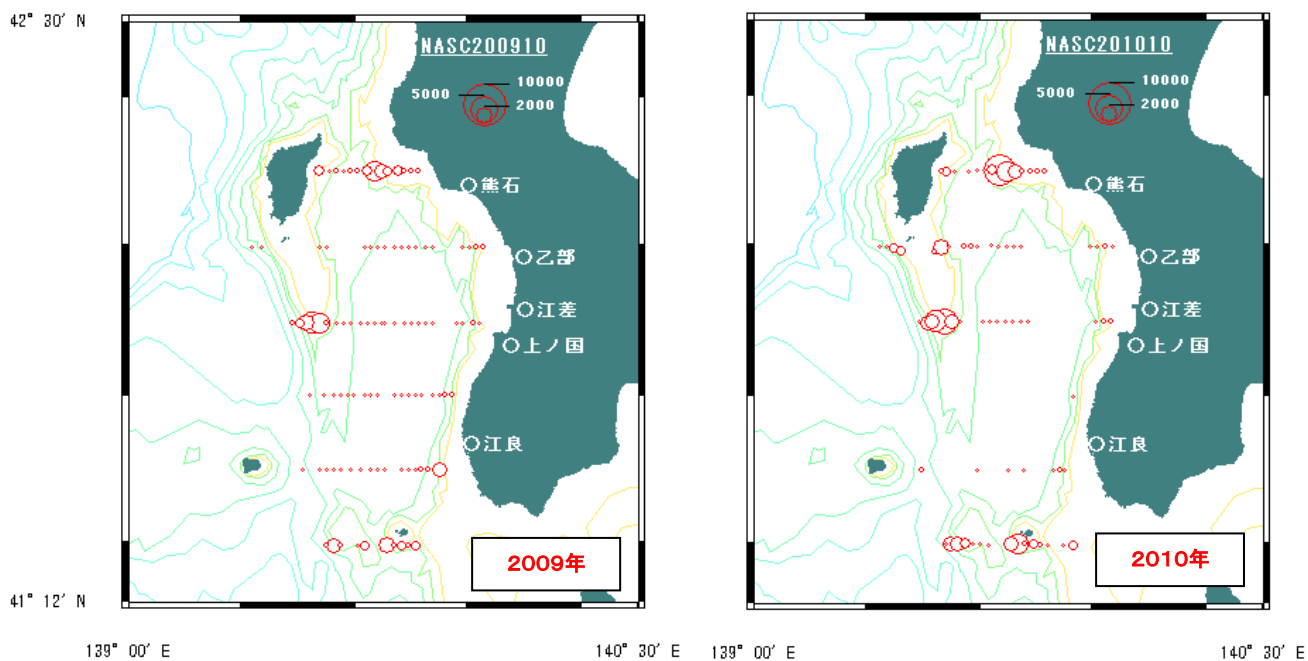


図2 魚群の水平分布の比較 (左: 2009年10月, 右: 2010年10月)

○の大きさが魚群反応量を示す

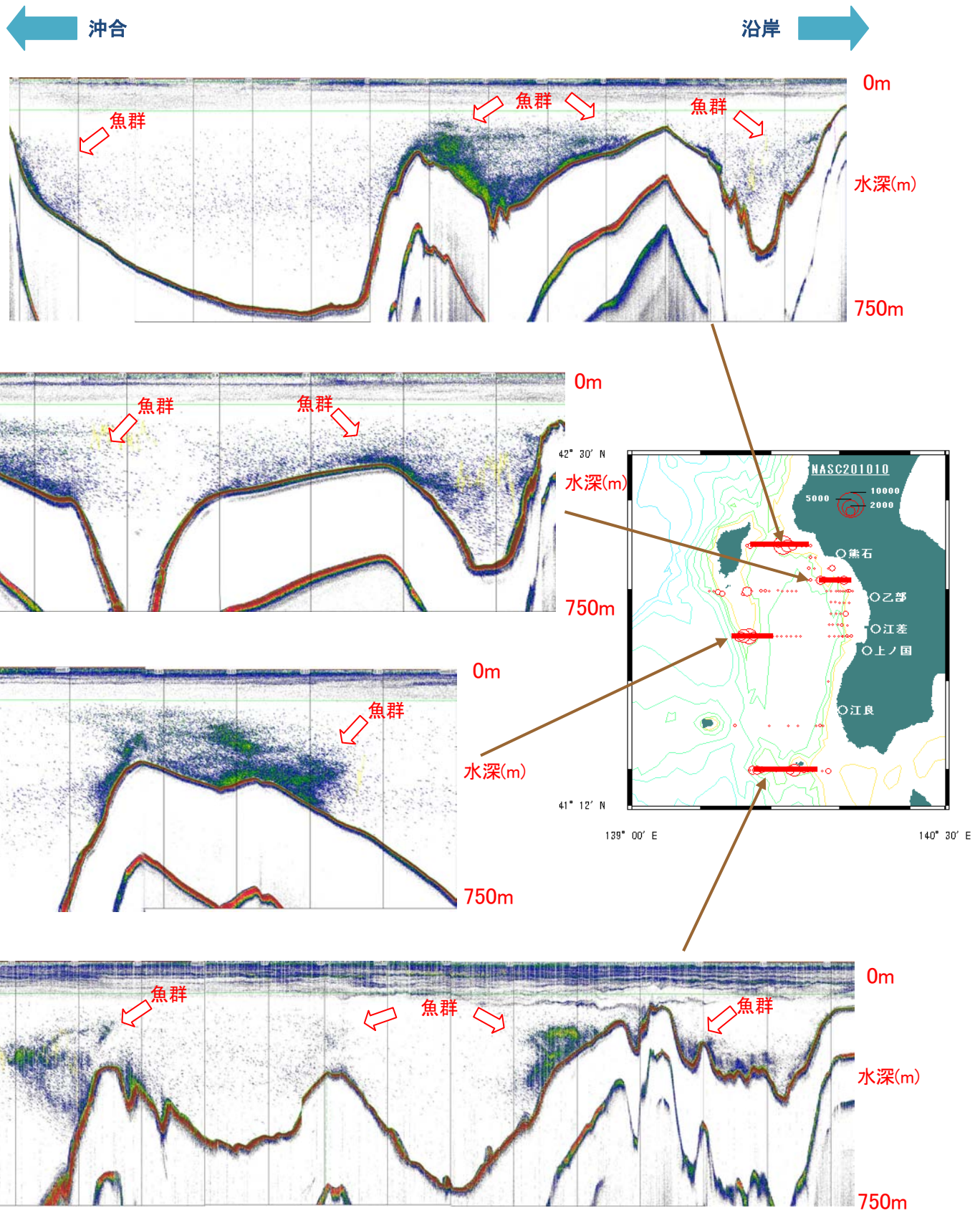


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

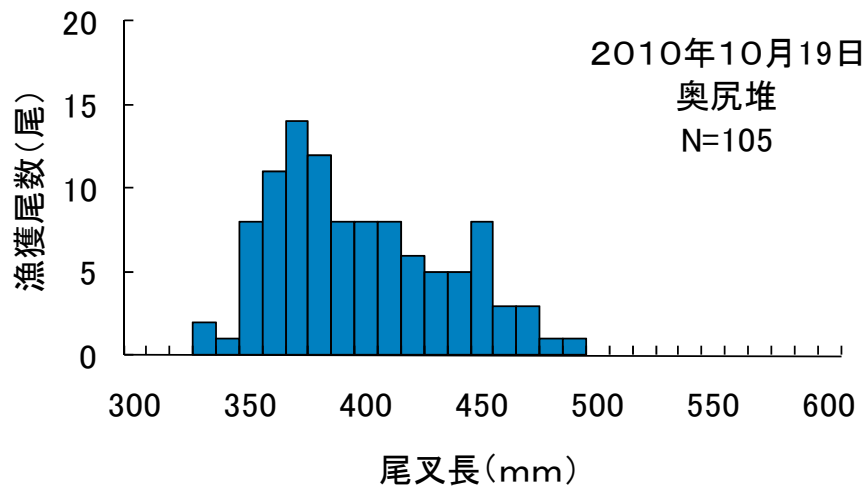
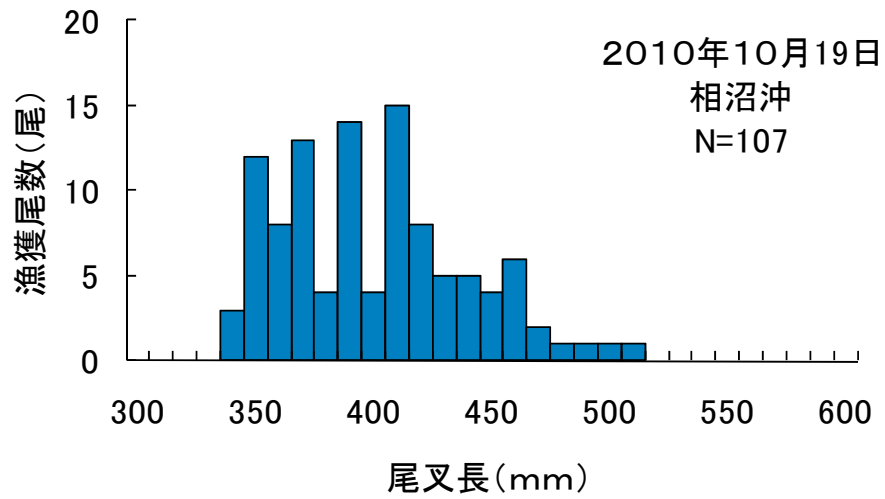


図4 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ
(上：相沼沖 下：奥尻堆)

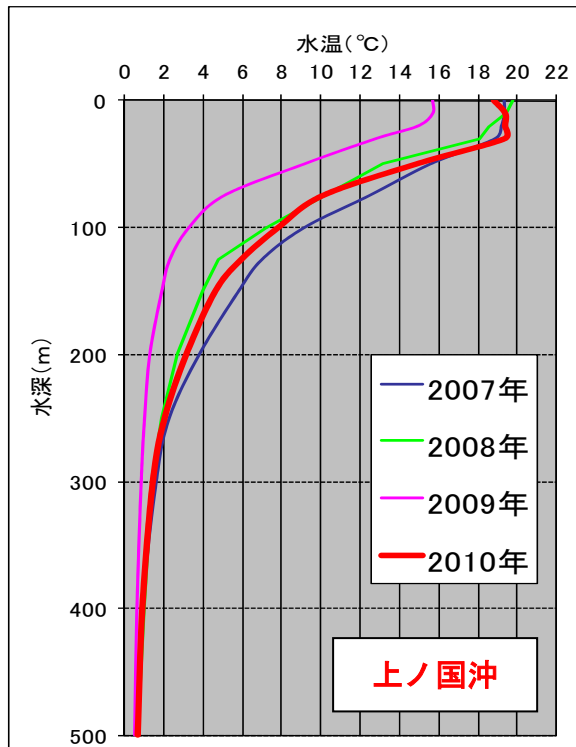
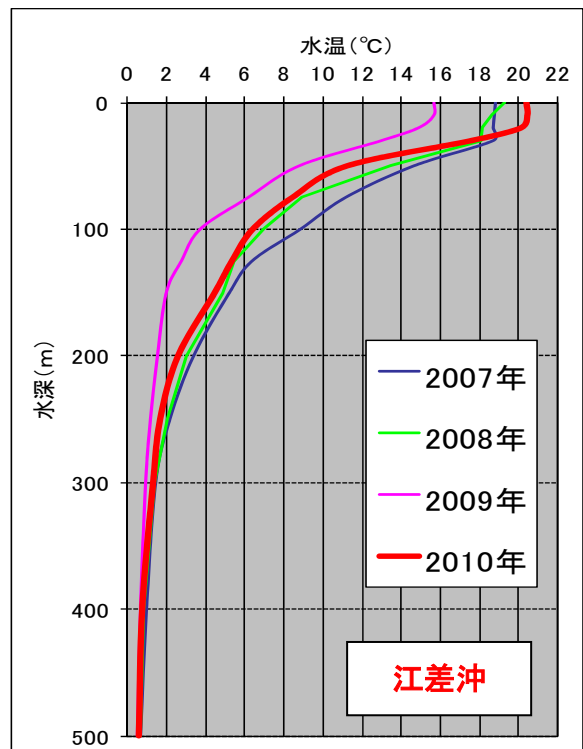
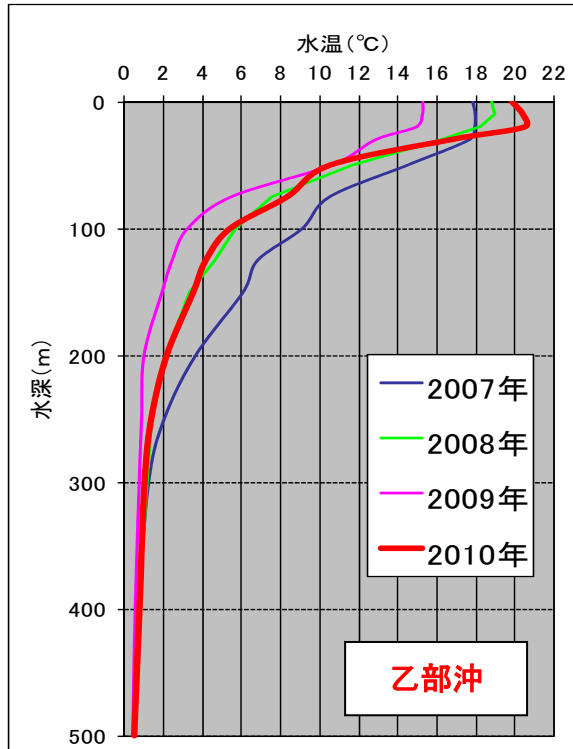


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上),
上ノ国沖(下)の水温分布